

【一】本文について、後の問いに答えよ。〈下 先生と遺書 二六〉

Kはなかなか奥さんとお嬢さんの話をやめませんでした。しまには私も答えられないような立ち入ったことまで聞くのです。私は面倒よりも①不思議の感に打たれました。以前私のほうから二人を問題にして話しかけたときの彼を思い出すと、私はどうしても彼の調子が変わっているところに気がつかずにはいられないのです。私はとうとうなぜ今日に限ってそんなことばかり言うのかと彼に尋ねました。そのとき彼は突然黙りました。しかし私は彼の結んだ口元の肉が震えるように動いているのを注視しました。彼は元来無口な男でした。(あ)平生から何か言おうとすると、言う前によく口の辺りをもぐもぐさせる癖がありました。彼の唇がわざと彼の意志に反抗するようにたやすく開かないところに、彼の言葉の重みも籠もっていたのでしよう。いったん声口を破って出るとなると、その声には普通の人よりも倍の強い力がありました。

彼の口元をちよつと眺めたとき、私はまた何か出てくるなとすぐ感づいたのですが、それが果たして何の準備なのか、私の予覚はまるでなかったのです。だから驚いたのです。彼の重々しい口から、彼のお嬢さんに対する切ない恋を打ち明けられたときの私を想像してみてください。②私は彼の魔法棒のために一度に化石されたようなものです。口をもぐもぐさせる働きさえ、私にはなくなってしまうのです。

そのときの私は恐ろしさの塊と言いましようか、または苦しきの塊と言いましようか、なにしろ一つの塊でした。石か鉄のように頭から足の先までが急に固くなったのです。呼吸をする弾力性さえ失われたくらいに固くなったのです。幸いなことにその状態は長く続きませんでした。私は一瞬間の後に、また人間らしい気分を取り戻しました。そうして、③すぐしまったと思いました。先を越されたなと思いました。

しかしその先をどうしようという(い)フンベツはまるで起こりません。恐らく起こるだけの余裕がなかったのでしょう。私は脇の下から出る気味の悪い汗がシャツに染み通るのをじつと我慢して動かずにいきました。Kはその間いつものとおり重い口を切っては、ぼつりぼつりと自分の心を打ち明けてゆきます。私は苦しくってたまりませんでした。恐らくその苦しきは、大きな広告のように、私の顔の上にはつきりした字で貼り付けられてあつたらうと私は思うのです。いくらKでもそこに気のつかないはずはないのですが、彼はまた彼で、自分のことに一切を集中しているから、私の表情などに注意する暇がなかったのでしょう。④彼の告白は最初から最後まで同じ調子で書いていました。重くてのろい代わりに、とても(う)ヨウイなことでは動かせないという感じを私に与えたのです。私の心は半分その告白を聞いていながら、半分どうしようどうしようという念に絶えずかき乱されていま

したから、細かい点になるとほとんど耳へ入らないと同様でしたが、それでも彼の口に出す言葉の調子だけは強く胸に響きました。そのために私は前言った苦痛ばかりでなく、時には⑤一種の恐ろしさを感じるようになったのです。つまり相手は自分より強いのだという恐怖の念が兆し始めたのです。

問一 傍線部(あ)〜(う)について、

(1) 漢字は読みをひらがなで答え、カタカナは漢字に直せ。

(2) 「平生」の意味を簡潔に答えよ。

問二 傍線部①とあるが、その理由として最も適切なものは次のうちどれか。

ア Kは奥さんとお嬢さんの話に関心がなかったのに、昨日から異常に興味を示してきたから。

イ Kは無口な男だったはずなのに、奥さんとお嬢さんの話をやめようとしなかったから。

ウ Kはお嬢さんへの恋心を私に打ち明ける準備として、脈絡のない言葉を投げかけたから。

エ Kは発言する時に口をもぐもぐさせる癖があつたが、今回は全く見受けられなかったから。

問三 傍線部②について、

(1) (こ)で用いられている表現技法として適切なものはどれか。

ア 直喩 イ 反復法 ウ 倒置 エ 体言止め

(2) (こ)での私の心理として最も適切なものは次のうちどれか。

ア 敵対 イ 憎悪 ウ 不審 エ 驚愕

(3) 「私は…化石された」原因となる部分を「…から。」に接続するように本文から二十字以上二十五字以内で探して、はじめと終わりの三字ずつを書け。

問四 傍線部③とあるが、その理由として最も適切なものは次のうちどれか。

ア 私とお嬢さんが交際していることを、Kに報告していなかったから。

イ 私はKからお嬢さんへの好意を、先に打ち明けられてしまったから。

ウ 私がお嬢さんに結婚を申し込んだ事実を、Kに言っていないから。

エ Kがお嬢さんに好意を持つことなど、絶対にないと確信していたから。

問五 傍線部④について、

(1) 「彼の告白」とは具体的に何か。簡潔に書け。

(2) 「最初から最後まで同じ調子」を表している擬態語を本文から六字で抜き出せ。

問六 傍線部⑤とあるが、その理由を「…から。」に接続するように、本文から二十四字で探して、はじめと終わりの三字ずつを書け。